

対象校No. 873
注4

学校コード F127310108125
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
四天王寺大学 文学部 国際コミュニケーション学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人四天王寺学園
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	IR・戦略統合課
職名・氏名	課長 <small>イマニシ トモノリ</small> 今西 智徳
電話番号	072-956-0062
(夜間)	072-956-3181
e-mail	ircenter_n@shitennoji.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

文学部

＜国際コミュニケーション学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	32

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 四天王寺学園

(2) 大学名

四天王寺大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒583-8501

大阪府羽曳野市学園前三丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ミナミタニ エケイ) 南谷 恵敬 (令和4年4月)		
学長	(スハラ ショウジ) 須原 祥二 (令和4年4月)		
学部長	(ヤハノ タカオ) 矢羽野 隆男 (令和6年4月)		
学科長等	(オクバ アツノリ) 奥羽 充規 (令和6年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
文学部 国際コミュニケーション学科 学士(文学)	文学関係	4年	90人	2年次 - 人 3年次 - 人 4年次 - 人	360人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90	-	-	0.47倍	-	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	101	(-)				
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	93	(-)				
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	88	(-)				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	43	(-)				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.47	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	43 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{43} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<文学部 国際コミュニケーション学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1								1
	和の精神Ⅱ	1後	1								1
	仏教概説	1前・後	2								1
	現代社会と人権	1前・後	2								1
	小計(4科目)	—	6	0	0	0	0	0	0	0	3
共通教育科目	大学の基礎	1前	2			2		2			
	大学の基礎	1後	2			2		2			
	基礎文書作成	1前・後		2							1
	小論文作成法	1後		2							1
	日本のビジネスマナーと文書	1後		2							1
	日中翻訳の理論と実践	1後		2							1
	共通教育特殊講義	2前		2							1
	小計(7科目)	—	4	10	0	3	0	2	0	0	5
こころと思想	仏教実践演習	2前		2			1				2
	聖徳太子学説	2前・後		2							2
	心理学Ⅰ	1前		2							1
	心理学Ⅱ	1後		2							1
	哲学入門	1前・後		2							2
	現代思想入門	1前		2							1
	構造主義入門	2後		2							1
	小計(7科目)	—	0	14	0	0	1	0	0	0	6
社会と文化	現代社会と仏教	2前		2							1
	日本国憲法	1前・後		2							1
	法学入門	1前・後		2							1
	政治学	1後		2							1
	仏教芸術入門	2後		2							1
	現代日本の文化と社会	1後		2							1
小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	6	
情報と自然科学	情報処理演習Ⅰ	1前・後		2							1
	情報処理演習Ⅱ	1後		2							2
	プログラミング	2後		2							1
	情報システム	2後		2							1
	データ収集分析	2前		2							2
	生命の科学	1前・後		2							1
	環境の科学	1後		2							1
	先端技術	1前		2							2
小計(8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	7	
健康と福祉	スポーツⅠ	1前		1							3
	スポーツⅡ	1後		1							3
	体育講義	1後		2							1
	社会福祉概論	1前・後		2							1
	社会福祉行政	1前・後		2							1
	児童福祉論	2前・後		2							1
	老人福祉論	1前・後		2							1
	障害者福祉	1後		2							1
	レクリエーション論	1前		2							1
	手話コミュニケーション	1前・後		2							1
小計(10科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	0	10	

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	和の精神Ⅰ	1前	1								1
	和の精神Ⅱ	1後	1								1
	仏教概説	1前・後	2								1
	現代社会と人権	1前・後	2								1
	小計(4科目)	—	6	0	0	0	0	0	0	0	3
共通教育科目	大学の基礎	1前	2			1		3			
	大学の基礎	1後	2					3			
	基礎文書作成	1前・後		2							5
	小論文作成法	1後		2							1
	日本のビジネスマナーと文書	1後		2							1
	日中翻訳の理論と実践	1後		2							1
	共通教育特殊講義	2前		2							1
	小計(7科目)	—	4	10	0	1	0	3	0	0	9
こころと思想	仏教実践演習	2前		2			1				2
	聖徳太子学説	2前・後		2							2
	心理学Ⅰ	1前		2							1
	心理学Ⅱ	1後		2							1
	哲学入門	1前・後		2							2
	現代思想入門	1前		2							1
	構造主義入門	2後		2							1
	小計(7科目)	—	0	14	0	1	0	0	0	0	6
社会と文化	現代社会と仏教	2前		2							1
	日本国憲法	1前・後		2							1
	法学入門	1前・後		2							1
	政治学	1後		2							1
	仏教芸術入門	2後		2							1
	現代日本の文化と社会	1後		2							1
小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	6	
情報と自然科学	情報処理演習Ⅰ	1前・後		2							1
	情報処理演習Ⅱ	1後		2							1
	プログラミング	2後		2							1
	情報システム	2後		2							1
	データ収集分析	2前		2							2
	生命の科学	1前・後		2							3
	環境の科学	1前		2							2
	先端技術	1前		2							2
小計(8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	9	
健康と福祉	スポーツⅠ	1前		1							4
	スポーツⅡ	1後		1							3
	体育講義	1後		2							1
	社会福祉概論	1前・後		2							2
	社会福祉行政	1前・後		2							2
	児童福祉論	2前・後		2							1
	老人福祉論	1前・後		2							1
	障害者福祉	1後		2							1
	レクリエーション論	1前		2							1
	手話コミュニケーション	1前・後		2							1
小計(10科目)	—	0	18	0	0	0	0	0	0	17	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	ドイツ語 I	1前		1								1
	ドイツ語 II	1後		1								1
	フランス語 I	1前		1								1
	フランス語 II	1後		1								1
	中国語 I	1前		1			1					2
	中国語 II	1後		1			1					2
	日本語 I	1前		1								1
	日本語 II	1後		1								1
	ドイツ語 III	2前		1								1
	ドイツ語 IV	2後		1								1
	フランス語 III	2前		1								1
	フランス語 IV	2後		1								1
	中国語 III	2前		1								1
	中国語 IV	2後		1								1
	コリア語 I	2前		1								3
	コリア語 II	2後		1								3
	日本語 III	2前		1								1
	日本語 IV	2後		1								1
小計(18科目)	—	—	0	18	0	0	1	0	0	0	0	8
キャリア教育	キャリアデザイン I	1前	2									1
	キャリアデザイン II	1後		2								2
	数学演習 I	1前		2								1
	数学演習 II	1後		2								1
	キャリアアップ数学	2前・後		2								1
	文章表現基礎	2後		2								1
	キャリア・プロジェクト研究	2前		2								3
	地域活性化概論	1前		2								6
小計(8科目)	—	—	2	14	0	0	0	0	0	0	0	14
知識・技能	知識・技能研究 I	1・2・3・4通		2								1
	知識・技能研究 II	1・2・3・4通		2								1
	小計(2科目)	—	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1
学外研修	国内実地研修 I	1前・後		1								1
	国内実地研修 II	1前・後		1								1
	海外実地研修	1前・後		2		1						1
	海外語学研修 I	1通		2								1
	海外語学研修 II	1通		2								1
	海外語学研修 III	1通		2								1
	海外語学研修 IV	1通		2								1
	中国語学研修 I	1後		2								1
	中国語学研修 II	1後		2								1
	中国語学研修 III	1後		2								1
	中国語学研修 IV	1後		2								1
小計(11科目)	—	0	20	0	1	0	0	0	0	0	2	
専門教育科目	キャリアマネジメント I	2前		2								1
	キャリアマネジメント II	2後		2								1
	キャリアゼミ	3前		2								2
	キャリアゼミ実践演習	3後		2								2
	小計(4科目)	—	0	8	0	0	0	0	0	0	0	3
学科共通科目	日本語教育学概論 I	1前		2								1
	日本語教育学概論 II	1後		2								1
	日本語教育実習指導及び実習A	4前		2								2
	日本語教育実習指導及び実習B	4後		2								2
	地域における多文化共生 I	3前		2		1						2
	地域における多文化共生 II	3後		2		1						2
	旅行産業基礎	1後		2								1
	国内旅行実務 I	2前		2								1
	国内旅行実務 II	2前		2								1
	地域・文化発信演習	2後		2								3
	地域観光演習 I	3前		2								3
	地域観光演習 II	3後		2								3
	グローバルスタディーズ I	1・2・3・4前・後		4			1					
	グローバルスタディーズ II	1・2・3・4前・後		4				1				
小計(14科目)	—	0	32	0	1	1	1	0	0	0	7	

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	ドイツ語 I	1前		1								1
	ドイツ語 II	1後		1								1
	フランス語 I	1前		1								1
	フランス語 II	1後		1								1
	中国語 I	1前		1								2
	中国語 II	1後		1								2
	日本語 I	1前		1								1
	日本語 II	1後		1								1
	ドイツ語 III	2前		1								1
	ドイツ語 IV	2後		1								1
	フランス語 III	2前		1								1
	フランス語 IV	2後		1								1
	中国語 III	2前		1								1
	中国語 IV	2後		1								1
	コリア語 I	2前		1								3
	コリア語 II	2後		1								3
	日本語 III	2前		1								1
	日本語 IV	2後		1								1
小計(18科目)	—	—	0	18	0	0	0	0	0	0	0	8
キャリア教育	キャリアデザイン I	1前	2									2
	キャリアデザイン II	1後		2								2
	数学演習 I	1前		2								2
	数学演習 II	1後		2								1
	キャリアアップ数学	2前・後		2								1
	文章表現基礎	2後		2								1
	キャリア・プロジェクト研究	2前		2								3
	地域活性化概論	1前		2								6
小計(8科目)	—	—	2	14	0	0	0	0	0	0	0	16
知識・技能	知識・技能研究 I	1・2・3・4通		2								1
	知識・技能研究 II	1・2・3・4通		2								1
	小計(2科目)	—	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1
学外研修	国内実地研修 I	1前・後		1								1
	国内実地研修 II	1前・後		1								1
	海外実地研修	1前・後		2		1						1
	海外語学研修 I	1前・後		2					1			
	海外語学研修 II	1前・後		2					1			
	海外語学研修 III	1前・後		2					1			
	海外語学研修 IV	1前・後		2					1			
	中国語学研修 I	1前・後		2								1
	中国語学研修 II	1前・後		2								1
	中国語学研修 III	1前・後		2								1
	中国語学研修 IV	1前・後		2								1
小計(11科目)	—	0	20	0	1	0	1	0	1	0	0	3
専門教育科目	キャリアマネジメント I	2前		2								1
	キャリアマネジメント II	2後		2								1
	キャリアゼミ	3前		2								2
	キャリアゼミ実践演習	3後		2								2
	小計(4科目)	—	0	8	0	0	0	0	0	0	0	3
学科共通科目	日本語教育学概論 I	1前		2								1
	日本語教育学概論 II	1後		2								1
	日本語教育実習指導及び実習A	4前		2								2
	日本語教育実習指導及び実習B	4後		2								2
	地域における多文化共生 I	3前		2		1						2
	地域における多文化共生 II	3後		2		1						2
	旅行産業基礎	1後		2								1
	国内旅行実務 I	2前		2								1
	国内旅行実務 II	2前		2								1
	地域・文化発信演習	2後		2								3
	地域観光演習 I	3前		2								3
	地域観光演習 II	3後		2								3
	グローバルスタディーズ I	1・2・3・4前・後		4					1			
	グローバルスタディーズ II	1・2・3・4前・後		4						1		
小計(14科目)	—	0	32	0	2	0	1	0	1	0	0	7

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ホスピタリティ英語Ⅰ	2前		2		1						
	ホスピタリティ英語Ⅱ	2後		2		1						
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅰ	2前	2			1					1	
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅱ	2後		2			1					1
	ホスピタリティ産業論	3前		2				1				
	ホスピタリティマインド論	2前		2				1				
	ホスピタリティ概論	1後	2					1				
	世界遺産と観光	1後		2								1
	観光メディア	2後		2								1
	地域と国際観光	2前		2								1
	ホスピタリティツーリズム論	2後		2				1				
	ホスピタリティマーケティング論	3後		2				1				
	観光英語	3前		2				1				
	観光英語実践演習(実地演習)	3前		2			1	1				
小計(14科目)	—		4	24	0	1	1	3	0	0	2	
合計(178科目)	—		42	300	0	3	2	4	0	0	74	
卒業要件及び履修方法												
基礎教育科目から必修科目6単位、共通教育科目から必修科目6単位、「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」から2単位、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「フランス語Ⅰ・Ⅱ」「中国語Ⅰ・Ⅱ」「日本語Ⅰ・Ⅱ」から2単位を含み32単位、専門教育科目から必修科目30単位を含み86単位、合計124単位以上を修得することを卒業の要件とする。 「日本語Ⅰ～Ⅳ」は、日本語を母語としない者のみ履修できる。 (履修科目の登録の上限:24単位(半年間))												

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ホスピタリティ英語Ⅰ	2前		2		1						
	ホスピタリティ英語Ⅱ	2後		2		1						
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅰ	2前	2			1						1
	国際コミュニケーション基礎演習Ⅱ	2後		2				1				1
	ホスピタリティ産業論	3前		2				1				
	ホスピタリティマインド論	2前		2				1				
	ホスピタリティ概論	1後	2					1				
	世界遺産と観光	1後		2						1		
	観光メディア	2後		2								1
	地域と国際観光	2前		2								1
	ホスピタリティツーリズム論	2後		2				1				
	ホスピタリティマーケティング論	3後		2				1				
	観光英語	3前		2				1				
	観光英語実践演習(実地演習)	3前		2			1	1				
小計(14科目)	—		4	24	0	2	0	4	0	0	2	
合計(178科目)	—		42	300	0	4	1	4	0	0	86	
卒業要件及び履修方法												
基礎教育科目から必修科目6単位、共通教育科目から必修科目6単位、「情報処理演習Ⅰ」または「情報処理演習Ⅱ」から2単位、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「フランス語Ⅰ・Ⅱ」「中国語Ⅰ・Ⅱ」「日本語Ⅰ・Ⅱ」から2単位を含み32単位、専門教育科目から必修科目30単位を含み86単位、合計124単位以上を修得することを卒業の要件とする。 「日本語Ⅰ～Ⅳ」は、日本語を母語としない者のみ履修できる。 (履修科目の登録の上限:24単位(半年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・教育内容の充実のため、「大学基礎演習Ⅰ」の専任教員等の配置教員数を教授「2」から「1」、講師「2」から「3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「大学基礎演習Ⅱ」の専任教員等の配置教員数を教授「2」から「0」、講師「2」から「3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「基礎文書作成」の兼任・兼任の教員数を「1」から「5」に変更
- ・担当者の職位昇格のため「仏教実践演習」の専任教員等の配置数を准教授「1」から教授「1」に変更
- ・担当者の負担を考慮し、「情報処理演習Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「2」から「1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「生命の科学」の兼任・兼任の教員数を「1」から「3」に変更
- ・教育内容の充実のため、「環境の科学」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更、また教育効果の向上を図るため配当年次を「1後」から「1前」に変更
- ・教育内容の充実のため、「スポーツⅠ」の兼任・兼任の教員数を「3」から「4」に変更
- ・教育内容の充実のため、「社会福祉概論」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「社会福祉行政」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・担当者の負担を考慮し、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の専任教員等の配置数を准教授「1」から「0」に変更
- ・教育内容の充実のため、「キャリアデザインⅠ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「数学演習Ⅰ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・教育内容の充実のため、「海外実地研修」の兼任・兼任の教員数を「0」から「1」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「海外語学研修Ⅰ」「海外語学研修Ⅱ」「海外語学研修Ⅲ」「海外語学研修Ⅳ」の配当年次を「1通」「1前・後」に変更。また、兼任・兼任の教員数を「1」から専任講師「1」に変更
- ・教育効果の向上を図るため、「中国語研修Ⅰ」「中国語研修Ⅱ」「中国語研修Ⅲ」「中国語研修Ⅳ」の配当年次を「1後」から「1前・後」に変更
- ・担当者の職位昇格のため「グローバルスタディーズⅠ」の専任教員等の配置数を准教授「1」から教授「1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「世界体験入門」の兼任・兼任の教員数を「1」から専任講師「1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「英文法Ⅰ」「英文法Ⅱ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「0」、専任講師「1」から「2」に変更
- ・担当者の負担を考慮し、「ベーシックコミュニケーションⅠ」「ベーシックコミュニケーションⅢ」の兼任・兼任の教員数を「2」から「1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「ベーシックコミュニケーションⅡ」の兼任・兼任の教員数を「1」から「2」に変更
- ・担当者の職位昇格のため「英語指導技術演習」の専任教員等の教員数を准教授「1」から教授「1」に変更
- ・担当者の職位昇格および教育内容の充実のため、「海外体験実践演習」の専任教員等の教員数を教授「0」から「2」、講師「0」から「3」に変更
- ・担当者の職位昇格のため「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ」の専任教員等の教員数を教授「3」から「4」、准教授「2」から「1」に変更
- ・担当者の職位昇格のため、「卒業研究」の専任教員等の教員数を教授「3」から「4」、准教授「2」から「1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「異文化理解」の専任教員等の教員数を講師「1」から「2」に変更
- ・担当者の職位昇格のため「国際コミュニケーション基礎演習Ⅰ」の専任教員等の教員数を准教授「1」から教授「1」に変更
- ・教育内容の充実のため、「世界遺産と観光」の兼任・兼任の教員数を「1」から専任講師「1」に変更
- ・担当者の職位昇格のため「観光英語実践演習(実地演習)」の専任教員等の教員数を准教授「1」から教授「1」に変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
22 科目	156 科目	0 科目	178 科目	22 科目 [0]	156 科目 [0]	0 科目 [0]	178 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	現代思想入門	2	1	一般	選択	担当者の負担を考慮(次年度開講予定)
2	現代日本の文化と社会	2	1	一般	選択	担当者の負担を考慮(次年度開講予定)
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講とした2科目は共通教育科目の選択科目として設置しているため、学生の履修、卒業への影響はないと考える。学生への周知は履修要覧で周知している。
今後については、担当教員のコマ数を配慮の上、検討する。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{178} = \boxed{1.12} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	四天王寺短期大学部 (必要面積4,400㎡) と共用 (収容定員：440人)			
	校舎敷地	— ㎡	99,596㎡	— ㎡	99,596㎡				
	運動場用地	— ㎡	67,013㎡	— ㎡	67,013㎡				
	小 計	— ㎡	166,609㎡	— ㎡	166,609㎡				
	そ の 他	— ㎡	37,375㎡	— ㎡	37,375㎡				
	合 計	— ㎡	203,984㎡	— ㎡	203,984㎡				
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	四天王寺短期大学部 (必要面積4,150㎡) と共用 (収容定員：440人)			
		7,242 7,309㎡ (7,242 7,309㎡)	57,040 56,896㎡ (57,040 56,896㎡)	861 938㎡ (861 938㎡)	65,143㎡ (65,143㎡)	【専用】学部専用研究室の減による変更(6) 【共用】学部および併設短期大学部専用研究室減による変更(6) 【共用する他の学校等の専用】併設短期大学部専用研究室の減による変更(6)			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	68室	64室	31室	1室 (補助職員 — 人)	1室 (補助職員 — 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		配属教育職員増による変更(6)			
	文学部 国際コミュニケーション学科			12 9 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共有分を含む 図書 394,500[41,000] 学術雑誌(電子を含む) 17,593[11,588] 13,396[7,525] 購入・休刊等による変更(6)	
		文学部 国際コミュニケーション学科	8,311 [3,953] (7,895 [3,873])	18 [15] (18 [15])	0 [0] (0 [0])	1,126 (886)	22 (17)		0 (0)
	計	8,311 [3,953] (7,895 [3,873])	18 [15] (18 [15])	0 [0] (0 [0])	1,126 (886)	22 (17)	0 (0)		
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		算出方法の変更のため(6)			
	4,246㎡	370		326,556 399,586					
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	11,008 ㎡	テニスコート7面 武道場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出学部全体図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 ※図書購入費については学科図書費全体の予算の見直しがあり、減額 開設前年度は実執行額に修正(6)
		教員1人当り研究費等	370千円	370千円	図書購入費	4,211千円 4,091千円	3,824千円 4,342千円	4,021千円 5,258千円	
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	12,379千円	3,240千円	46,789千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,457千円	1,157千円	1,157千円	1,157千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入, 手数料収入, 雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		四天王寺大学						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
文学部											
日本文学	4	100	0	100	学士(文学)	0.80	-	-	令和6	大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1	
国際コミュニケーション学科	4	90	0	90	学士(文学)	0.47	-	-	令和6	同上	
人文社会学部											
日本文学	4	-	-	-	学士(人文社会学)	-	-	-	平成24		令和6年度より学生募集停止
国際キャリア学科	4	-	-	-	学士(人文社会学)	-	-	-	平成24		令和6年度より学生募集停止
社会学部											
社会学	4	160	0	645	学士(社会学)	1.02	1.01	-	昭和61	同上	
人間福祉学科	4	70	0	295	学士(社会学)	0.74	-	-	平成18	同上	
教育学部											
教育学	4	260	10	1,007	学士(教育学)	1.10	1.10	-	平成20	同上	
経営学部											
経営学科	4	160	0	645	学士(経営学)	1.08	1.08	-	平成20	同上	
看護学部											
看護学科	4	80	0	320	学士(看護学)	1.14	1.14	-	令和元	同上	
大学全体	4	920	3年次10	3,680	-	0.98	-	-	-		

大学の名称		四天王寺短期大学部						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
保育科	2	120	-	240	短期大学士(保育)	0.45	-	-	昭和42	大阪府羽曳野市学園前三丁目2-1	
ライフデザイン学科	2	100	-	200	短期大学士(ライフデザイン)	0.78	-	-	平成13	同上	
短期大学全体	2	220	-	440	-	0.60	-	-	-		

(注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画										
届出時 (令和5年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。(文学部国際コミュニケーション学科)	【届出】 遵守事項 教員組織の年齢構成の適正化を図るために、若手教員の育成について検討を行った。 完成年度以降の後任補充については、分野や年齢構成等について検討を行い、若手教員を採用するように方針を決定した。	履行中 この在任期間内に、若手教員の育成ができるように科目担当を配慮し、准教授・講師の研究を促し研究実績の蓄積を進めるとともに、昇格に足る資質・能力の醸成を図る。 また、同時に退職者と同等の教育・研究水準の継続ができるように、退職と同時に若手・中堅教員を補充し、教員組織の年齢構成の適正化を図る。										
届出時 (令和5年)	経営学部経営学科の収容定員超過の是正に努めること。	【届出】 遵守事項 経営学部経営学科の収容定員超過を下表のとおり是正した。 <table border="1" data-bbox="814 884 1327 991"> <thead> <tr> <th></th> <th>入学定員(人)</th> <th>収容定員(人)</th> <th>学生数(人) (令和6年5月1日現在)</th> <th>収容定員充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営学部 経営学科</td> <td>160</td> <td>645</td> <td>703</td> <td>1.08</td> </tr> </tbody> </table>		入学定員(人)	収容定員(人)	学生数(人) (令和6年5月1日現在)	収容定員充足率	経営学部 経営学科	160	645	703	1.08	履行済
	入学定員(人)	収容定員(人)	学生数(人) (令和6年5月1日現在)	収容定員充足率									
経営学部 経営学科	160	645	703	1.08									

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。) と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文学部 国際コミュニケーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、組織的な教育の改善に向け「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、FDの企画立案事項の審議・推進を図ることを目的として活動している。国際コミュニケーション学科からは、委員会の構成員として国際コミュニケーション学科長が選任した教員2名が任命され、これによって大学全体と文学部国際コミュニケーション学科の連携・協働体制が取られている。

また、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため「スタッフ・ディベロップメント委員会」を設置し、委員会を中心として大学職員の資質向上を図っている。

さらに大学全体として、大学の現状や課題などを共通認識とすることや意識改革を図るため、教員と職員が同時に参加する研修会やワークショップ、人権研修会などの開催もしている。

学科においても学部学科の設置趣旨に即し、学科独自のFD活動として、文学部クロスオーバー・ラーニング科目(学科共通科目群)の実施に向けた検討会を設置する。文学部の「学科共通科目」における「地域観光文化」分野と「多文化共生」分野で両学科が協同して授業展開するため、地域文化、観光、多文化の知識・方法論を共有し、教育研究の質の確保・向上を図る。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

【全学】

第1回ファカルティ・ディベロップメント委員会(メール審議)：令和6年度相互授業参観について、実施要領の審議を行う予定。(回答期限は令和6年5月8日)

スタッフ・ディベロップメント委員会：令和6年度未実施

【文学部国際コミュニケーション学科】

クロスオーバー・ラーニング科目検討会：検討会の構成は授業担当者6名。令和6年度5月6月の各意見交換を経て、7月に第1回連絡会を開催する予定。

c 委員会の審議事項等

【全学】

[ファカルティ・ディベロップメント委員会]

(1) 授業内容、方法および、評価に関する事項

(2) 授業の改善に関する事項

(3) その他、FDの目的達成のために必要な事項

[スタッフ・ディベロップメント委員会]

(1) SDの企画立案に関する事項

(2) SDの推進計画に関する事項

(3) SDの実施に関する事項

(4) その他SD推進に必要な事項

【文学部国際コミュニケーション学科】

[クロスオーバー・ラーニング検討会]

「多文化共生」連絡会は、R8開講「地域における多文化共生ⅠⅡ」について、地域の現状の確認と連携の方法を検討する予定。「地域観光」連絡会は、R7開講「地域・文化発信演習」/R8開講「地域観光演習Ⅰ・Ⅱ」について、地域の現状の確認、効果的な実施方法、及び教授内容を検討する予定。

② 実施状況

a 実施内容

【全学】

1. 教員相互の授業参観
事前に各教員が参観可能授業を提示し、令和6年6月3日から6月29日の期間で実施予定。
2. 新着任教員のための研修会
新着任教員間の互恵的な関係構築を目的とし、教育の質保証につなげるために実施する。
3. 学生調査
本学の教育内容、教育環境、学生生活等を充実させるために、全学生を対象にアンケートを実施。設問の一部は文部科学省実施の「全国学生調査」に準拠した内容としている。アンケート開始は10月頃で集計結果は学内ホームページにて公表する。
設問には学科独自の設問としてディプロマ・ポリシーの達成度を自己評価する問が含まれており、アセスメント・ポリシーに従って評価が行えるようにしている。
4. 全学FD研修会（令和7年2月頃を予定）
外部講師による講演を予定。題目についてはFD委員会で審議、決定し、全専任教員の出席を求めていく。
5. 全学SD研修会
例年外部講師による講演。題目についてはSD委員会で審議、決定し、全専任教職員の出席を求めていく。
6. 教員向けICT関連講習会（昨年度は5回実施）
講義内で活用できそうな内容を厳選し希望者を募って講習を実施。内容はオフィスソフトの利用やオンデマンド教材作成、AI活用などを対象とする。
7. シラバスチェック
学位の質保証の観点から、担当教員以外の第三者による組織的なシラバスチェックを行う。
チェックは学科ごとに実施し、専門教育科目を対象としている。

【文学部国際コミュニケーション学科】

8. 文学部クロスオーバー・ラーニング科目（学科共通科目群）の実施に向けた検討会
文学部の「学科共通科目」における「地域観光文化」分野と「多文化共生」分野で両学科が協同して授業展開するため、地域文化、観光、多文化の知識・方法論を共有し、教育研究の質の確保・向上を図る。5月6月の担当者間での各意見交換を経て、7月に第1回検討会を学部長・学科長も参加して開催する予定。

b 実施方法

【全学】

1. 教員相互の授業参観
各学科のFD委員を通し、所属学科の教員の参観可能授業を取りまとめ、全教員・事務職員に提示し、指定の期間に相互授業参観を実施する。
参観後は合評会の実施や参観した教職員から提出される「参観シート」を授業実施教員へフィードバックし、授業改善に役立てる。
2. 新着任教員のための研修会
実施にあたっては、新着任研修会は国際コミュニケーション学科以外の教員も対象となっていることから、全対象教員が出席可能な時間（木曜日2限目終了後）に設定し開催している。
3. 学生調査
指定された期間内（約6週間）に大学のポータルサイトへ各自でログインしアンケートに回答する。
アンケートは無記名とし、学生の本音を聴取するために個人が特定されないようにしている。
4. 全学FD研修会
FD委員会で研修内容を検討し、専任教員全員の参加を求めて開催している。
5. 全学SD研修会
SD委員会で研修内容を検討し、専任教職員全員の参加を求めて開催している。
6. 教員向けICT関連講習会
その時々の最新技術や必要と思われる内容を高等教育推進センターで検討し、全教員を対象に開催している。
7. シラバスチェック
各学科のFD委員が所属学科のシラバスチェックを行う。チェックに際しては教務課作成の「シラバス作成ガイドライン」や「シラバスに関するチェックシート」を基に行い、主にカリキュラム・ポリシーに従った授業概要、授業計画、成績評価となっているかを確認する。

【文学部国際コミュニケーション学科】

8. 文学部クロスオーバー・ラーニング科目（学科共通科目群）の実施に向けた検討会
担当者間の協議は、各教員の可能な時間を調整して行い、7月の検討会は授業期間終了後に共通に参加可能な日時を設定して開催する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【全学】

1. 教員相互の授業参観

令和6年5月1日の段階では、相互授業参観の計画立案を行ったところであり、実施は6月3日から6月29日の予定である。

2. 新着任教員のための研修会

第1回目（令和6年4月1日開催、9名参加）「新着任教員研修制についての説明」

（講演者：高等教育推進センター長）

第2回目（令和6年4月11日開催、9名参加）「本学の大学の理念とビジョン、教員の職務等」

（講演者：学長）

第3回目（令和6年4月25日開催、7名参加）「着任後の疑問や困り事等の情報交換」

（講演者：高等教育推進センター）

令和6年5月以降、着任2年目教員との座談会を実施予定。年度末には「1年の振り返りや今後の目標等」を提出予定。

3. 学生調査

令和6年10月下旬から回答を開始し、令和7年1月まで集計分析を行い2月には結果を報告する予定。

4. 全学FD研修会

令和7年2月頃実施予定。講師依頼の関係から令和6年11月ごろまでには研修内容を決定する予定。

5. 全学SD研修会

令和6年度の開催日程は未定。

6. 教員向けICT関連講習会

年間6回を予定しているが、内容については未定。

7. シラバスチェック

令和7年2月下旬にチェック依頼を行う予定。

【文学部国際コミュニケーション学科】

8. 文学部クロスオーバー・ラーニング科目（学科共通科目群）の実施に向けた検討会

令和6年5月1日の段階では、検討会は計画中であり、実施はこれからとなる。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

現段階では、教員相互の授業参観は計画中・新着任教員のための研修及び「見守り会議」は実施中であり、その他の事項については計画中である。よって、改善は計画を実施した結果に基づき行う予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

【全学】

令和6年度夏学期は7月中に、冬学期は12月下旬から1月中旬（14回目から15回目の授業期間）に実施予定。

【文学部国際コミュニケーション学科】

4月11日（木）の「大学基礎演習Ⅰ」にて、Google formsにより学科独自アンケートを実施した。

新入生の興味関心の所在、志望する資格免許、留学研修への意識など、今後の教育指導を行うための基礎となる情報の収集を行った。

b 教員や学生への公開状況、方法等

【全学】

学生については学内HPにて公開する。教員については詳細分析を教育改革推進本部会議にて報告し、自由記述の内容については一括して学科長に送付している。

【文学部国際コミュニケーション学科】

アンケート実施において、回答の有無を確認するために学籍番号・氏名を記す欄を設けたが、学生にはアンケートの趣旨を説明し、個人情報保護、成績評価等に影響がないことを説明した。新入生アンケートの結果を教員間で共有し、今後の指導の仕方について協議した。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

四天王寺大学の教育理念は、聖徳太子の敬田院設立の精神（仏教精神）を基本とし、「すべての人が、他者および自身の善さを信じ、自ら進んで宗教的情操を涵養することで人格の陶冶を図りながら、広範にして深い知識と高い技術・技能を修得し、理想的な世界についての未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える修行を行う」ことであり、建学の精神に基づき、人文学に対する知識や理解を深め、言語およびメディアによる確かな表現力・コミュニケーション力を身につけ、専門分野における課題を発見し、知見を応用して問題を解決する能力を培うことを目的とする文学部において、国際コミュニケーション学科は、英語や英語圏の文化、中国語やアジア文化などを目的に応じて学び、言語およびメディアによって表現しながら、観光等の場面で異文化の人々と交流することで、実践的なコミュニケーション力や情報発信力、問題解決力を育むとともに、異文化を受容し他者を思いやる心を身につけることを目的とした人材を育成することにある。文学部国際コミュニケーション学科は、本年4月に開設し、第1期生として43名の学生を迎え入れた。開設して間もない現時点において教育・研究にかかる評価を行うことはできないが、専門的な知識・技能を修得する講義や実習、論理思考を培い課題を発見し解決する能力を養う演習などの中で、アクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的・対話的な学びの深化を図り、日本語や英語、中国語を通して多様な情報メディアを効果的に用いた豊かなコミュニケーション能力を活用することにより、実践的・創造的な学修を促している。また、地域社会・海外などでの体験型活動に取り組むことにより、他者と協働し主体的に課題を解決する能力を高める教育方法を取り入れている。これらにより文学部国際コミュニケーション学科の「学び」を教授し、4年間の学修における動機づけを行い学生生活をスタートさせている。今後も設置計画を確実に履行するための努力を重ね、学生の確保と建学の精神に基づく優れた教育を進めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年8月下旬 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和6年8月下旬を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和11年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。